

南の風

- ・巻頭言
- ・7月のスナップ
- ・熱中症対策 ・校地内外の事故防止
- ・8月の予定



ぐんぐん伸びる

校長 若狭 陽一

夏休みが明け、元気な笑顔が戻ってきました。3年生が観察してきたひまわりは、高さも2mをゆうに超す勢いです。実は、このひまわり。夏休み前の高さは、子どもたちの膝ぐらいだったのです。この1か月の間にぐんぐんと伸びたひまわりに驚くばかりです。

さて、子どもたちの夏休みはいかがでしたでしょうか。7月末の学校だよりで書いた「特別なこと」があったり、「特別なことをするための普段どおり」があったりと、充実した日々を過ごせたのではないかと思います。

早いもので、季節は秋に向かっていきます。秋は「読書の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」と昔から言われているように、落ち着いた環境の中で、子どもたちがぐんぐん伸びる季節です。

ところで、子どもたちの伸び（主に心の面において）に関して「後伸び」という言葉があります。成長の早い段階で結果を出す「先伸び」に対し、「後伸び」は、早い段階では結果が出ずとも、その後ぐんぐん能力を伸ばすタイプにあたります。そして、成長においては、長い目でみると「後伸び」の方が期待できるとも言われています。

発達心理学者の内田伸子氏（お茶の水女子大学名誉教授）は、「後伸び」する子どもの特徴は、「幼少期に思いっきり遊んだ経験や、好きなことに集中して取り組んだ経験があることだ」と言っています。そして、「それらは、『自主性』『創造性』『好奇心』『向上心』といったあらゆる能力の土台になる」とも言っています。私は、これまでの経験上、「後伸び」が期待できる次のような姿を子どもから見付けることがあります。

- ・自分でやってみないと気が済まない。（自主性？）
- ・何かをつくったり、試したりすることが好きで、柔軟な考えをする時がある。（創造性？）
- ・エネルギーで、挑戦したがる。（好奇心？）
- ・もっと上手になりたいと思い、試行錯誤する。（向上心？）

今回の子どもの夏休みは、「普通だった」と感じている保護者の皆さんも多いのではないのでしょうか。でも、上記の視点で、再度、子どもの夏休みをふり返ると、「後伸び」が期待できる姿がいくつか見つかるのではないのでしょうか。普通の中に見出した姿を喜び、「後伸び」を期待しながら、秋を迎えていきましょう。

